

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターあいあい		
○保護者評価実施期間	令和6年10月28日		～ 令和6年11月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	100	(回答者数) 68
○従業者評価実施期間	令和6年11月20日		～ 令和6年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 25
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種の配置、専門職員間の連携により、質の高い療育の提供	<ul style="list-style-type: none"> 朝礼、夕礼時の振り返りや意見交換の時間を設け、児童の理解を深めている。 職員とコミュニケーションを密に図ることで、信頼関係の構築を図る。 必要に応じて、個別・少人数クラスを実施。 単独通園、併行通園、親子通園などの利用形態の柔軟さ。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝礼、夕礼時の振り返り等の内容について、より充実したものになるよう、内容の精査を行う。 業務の整理、改善を行うことで、ミーティング時間を十分に確保し、学ぶ機会を確保する。合わせて、職員の心のゆとりを作る。 児童の発達状況に応じた、個別・小集団療育等が計画的に実施できる。
2	保護者支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 保護者交流会、学習会、親子療育など、保護者が来所できる機会の保障。また、保護者間の交流できる時間・場所の提供を行っている。 保護者会の運営のサポート 	<ul style="list-style-type: none"> 参加しやすい仕組み作りは必要。回数を増やすことで、参加できる機会を増やしていく。 発信しやすい環境作りと保護者との信頼関係作りを努める。
3	職員の研修体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内外の研修に参加できる体制が整っている。 職員が参加できるよう、業務時間内での設定などの工夫。 メール配信システムを活用し、研修の案内を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間の職員研修の把握不足のため、年間計画を立てる。 事業所内研修や伝達研修をとおして、勤務時間の短い職員も参加しやすい研修体制の構築。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	空間・環境の工夫 及び職員配置の柔軟な対応	<ul style="list-style-type: none"> 限られた空間の中で、個別対応(クールダウン等)などの対応の難しさ。 職員配置や活動の調整が常に必要。 地域資源の活用が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> センター内で解決しようとせず、戸外や公共の場などの地域資源を積極的に活用。そのための、地域資源の開拓を行う。 限られた空間・職員配置の中で、職員間の連携を図り、支援の充実に繋げていく。
2	障害児支援拠点としての機能強化	<ul style="list-style-type: none"> 地域の各保育所及び事業所等の関係機関への支援は実施しているものの、十分でない。 地域の中の中核的役割を担っているという意識が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> センター内のみにならないよう、地域資源を活用する。児童の活動をとおして、地域の方と交流を深め、センターの取り組み及び発達障害児への理解を深めていただく。 地域支援に向く機会を増やし、中核機能の役割を果たす。また、地域課題に目を向け、地域に発信していく力をつけていく。
3	保護者への発信方法	<ul style="list-style-type: none"> センターでのこどもたちの様子等については、メール配信システムやブログで発信しているが十分とは言えない。 マニュアルは発信はしたことがない。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者にセンターでの取り組みを知っていただく機会を職員一人一人は意識し、発信。発信方法はメール配信や交流会、様々な機会を活用する。 マニュアルの発信について、センター内で協議し周知方法について検討する。